

水稻生産情報

生育良好！生態はやや早い！作業遅れに注意！

JA つがる弘前
中央地区営農係

1. 生育概況

管内生育観測圃 生育調査結果（7月1日調査）

6月は気温が高かったことから分けつが進み、幼穂形成期は、はれわたりで7月7日頃となり、出穂期は7月30日頃と予想されます。生態はやや早く推移しているため、中干しや追肥、病害虫防除は時期を逸しないようこまめに圃場を確認し計画的に作業を進めましょう。

品種	草丈 (cm)			茎数 (本/株)			葉齢 (葉)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
はれわたり	47.3	48.8	48.9	20.1	18.6	20.3	8.2	8.4	8.4
まっしぐら	54.0	48.2	49.8	23.0	17.8	18.7	8.4	8.2	8.5
青天の霹靂	53.6	48.0	50.3	17.9	17.9	18.2	7.9	8.1	8.3

2. 追肥の時期

今年は生態がやや早く推移していますので、平年値を参考に遅れないよう注意しましょう。追肥は『NK25号』または、『つがるの追肥』を1袋/10a（チッソ成分で2kg/10a）散布しましょう。葉色が濃い場合は、幼穂形成期から10日後にもう一度見て、葉色が薄くなってから追肥しましょう。減数分裂期以降でも葉色が落ちていない場合は、追肥は中止してください。

	幼穂形成期前 ～7月6日頃	幼穂形成期 7月7日頃	減数分裂期 7月14日頃	減数分裂期以降 7月15日頃～	
追肥の影響	過剰な分けつの発生 生育の遅れ 倒伏しやすくなる				増収効果が低い 米の食味低下

青天の霹靂は追肥が遅れると玄米タンパク質含有率が高まります。追肥は営農係に相談しましょう。

3. 水管理

今年は生態がやや早い為、例年通りに水管理を行うと遅れる可能性があるため注意しましょう。

【中干し】

- ・生育が遅れていて1株当たり約20本茎数が確保できていない場合は、中干しは中止しましょう。
- ・中干しを行っている場合は、幼穂形成期までには終わらせましょう。

【中干しできなかつた場合】

- ・地耐力が低い圃場では出穂7日前～出穂期に落水し地固めしましょう。
- この時期に低温（平均気温20以下、最低気温17以下）の場合は深水管理を行いましょう。

時期	水深	ポイント
幼穂形成期 (7月7日頃～)	10cm程度	・幼穂形成期から10日間は気温の高低に関わらず、10cm程度の深水管理を行いましょう。
穂ばらみ期 (7月17日頃～)	寒い日：15～20cm 暖かい日：4cm	・最も低温に弱い時期です。 ・天候に気を付けながらこまめに水管理を行いましょう。
出穂・開花期 (7月30日頃～)	寒い日：10cm 暖かい日：5～6cm	・最も水が必要な時期です。 ・開花・受精がスムーズにできるよう、水はきらさないようにしましょう。 高温時の水管理に注意！ 出穂後10日間の最高気温が30度を超えると胴割米が発生しやすくなります。水の入れ替え、かけ流しを積極的に行いましょう。

4. カメムシ対策（草刈り）

今年のカメムシ発生は多い予想となっております。カメムシの生息密度を低下させるため、7月17日までにこまめに草刈りを行いましょう。7月18日～9月上旬（出穂4週間後）までは草刈りは絶対やめましょう。

1,000粒に2粒あるだけで2等へ落ちてしまいます。



5. 病害虫防除

時期	病害虫	薬剤
出穂直前（7月25日頃）	いもち病	ビーム DL 粉剤（3kg/10a）
穂揃期（8月1日頃）	いもち病・カメムシ	ビームスタークル粉剤 5DL（3kg/10a）
穂揃期 7～14日後頃	カメムシ	スタークル粉剤 DL（3kg/10a）

< 航空防除実施について >

- ・藤崎地区・中央地区航空防除では、いもち病防除は省略し、カメムシ防除を2回実施します。（散布予定：1回目8月上旬頃、2回目8月中旬頃）こまめに圃場を見回り、いもち病の発生が見られたら直ちに薬剤散布を行いましょう。
- ・申込した方は旗の設置を必ずお願いいたします。

